

令和4年第1回定例会 代表質問

## 「日田市総合的な子ども支援拠点」について

◆11番(中島章二君) [登壇]

市民クラブを代表しまして、市政に対する代表質問を行います。

令和4年度市政執行の方針と予算案についてから。日田市総合的な子ども支援拠点創設事業の機能と役割、それと手話言語条例議案について質問いたします。次に、コロナ禍における小中学生の学びの保障について。3項目めに、教職員の働き方改革の現状について。最後に、災害に対する平常時の備えについて。

以上、4項目を質問させていただきます。

まずはじめに、日田市総合的な子ども支援拠点創設事業の機能と役割について、整理して説明いただきたく質問させていただきます。

令和4年度市政執行の基本方針では、総合的な子ども支援拠点については、子育ての不安や悩みなどの相談に一元的に対応できる総合窓口設置や、一時預かりサービスなどの支援や児童家庭支援センターなどの専門機関と連携した、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行える施設。日田市を創生する取組みの中では、関係機関が一体となって支援するための総合的な子ども支援拠点の創設に向けた取組みを進めており、子育てや家庭環境に関する相談やいじめ、不登校に関する教育相談など、様々な相談に一元的に対応できる総合窓口を設置し、必要とされる支援につなげること。

また、妊娠、出産期から就学後に至るまでの切れ目のない支援を行うためには、福祉と教育が一体となって子供の成長を図るため、教育の視点に立った支援の在り方についても議論を深め、子供の成長段階に応じた様々な子育て支援を推進していく。まちづくり大綱の推進の中では、その中の福祉分野の子供、子育ての支援について、一元的な子育て相談窓口を有する総合的な子ども支援拠点を創設し、子供の健やかな成長を一体的に支える環境を構築していく。

予算案編成の中の基本方針の中、まちづくり大綱の主要事業の福祉の子ども子育て支援の推進では、総合的な子ども支援拠点創設事業概要に子育て環境の充実を図るなど、子供の成長を関係機関が一体となり支援する、総合的な子育て支援拠点を創設する。子ども家庭総合支援拠点事業では、子育てに関する悩みや児童虐待など、様々な課題の解消を図るため、ソーシャルワーク機能を担い、必要な支援業務を行う。教育文化の項には明記されていないようでした。

このように、幾つかの内容で説明がありますが、非常に内容が多岐にわたるように感じます。総合的な支援拠点で実施する内容と子ども家庭総合支援拠点で実施する内容、その関係性について日田市の子育て支援への総合的な考え方を整理して、分かりやすく御説明ください。そして、子供支援拠点の機能と対象者をどのように考えているのか。また市政方針の創設の取組みに上げられている、教育の視点に立った支援についてどのように考えているのか、お聞かせください。

○議長(石橋邦彦君) 市長。

◎市長(原田啓介君) [登壇]

それでは、私から11番議員お尋ねの、令和4年度市政執行の方針と予算案についてのうち、日田市総合的な子ども支援拠点の機能と役割についてお答えをいたします。

現在、子育てを取り巻く状況は、核家族化や人間関係の希薄化などにより、虐待や教育の放棄をはじめとする様々な問題が顕在化し、その内容も複雑多様化しております。全国的に児童虐待の件数も増加傾向にあり、重篤な事態が後を絶えないなど深刻な社会問題にもなっているところでございます。このような状況を受け、国は平成28年に児童福祉法を改正し、市町村に対し主に要支援児童への見守り等の業務を行うことを目的とした子ども家庭総合支援拠点の設置を努力義務として求めました。

本市におきましては、今年度より当該拠点と併せ母子保健事業を行います子育て世代包括支援センターをこども家庭相談室に設置し、妊娠期から状況の把握や必要に応じた見守りを実践することで、継続的な支援を行っているところでございます。

一方、現在設置に向けて取組を進めております総合的な子ども支援拠点は、妊娠・出産期から就学後に至るまで切れ目のない支援を行うため、福祉と教育が一体となって様々な相談に一元的に対応できる総合窓口を設置し、必要とされる支援につなげるというものでございます。

したがって、こども家庭相談室に設置されております子ども家庭総合支援拠点が担う要支援児童に対する相談事業、子育て包括支援センターの機能につきましても総合的な子ども支援拠点に集約し、さらに充実させ、実施することで、全ての子供の健やかな成長を支援してまいりたいと考えています。

次に、総合的な子ども支援拠点における機能と対象者についてでございます。

まず、機能面につきましては、福祉と教育が一体となって子供の成長を支え、子育てや家庭環境に関する相談、いじめ・不登校に関する教育相談など、あらゆる相談に応じることができる総合窓口を中心に相談しやすい環境を整えるとともに、子育てを支援します乳幼児健診、一時預かりや子育てをサポートする学習機会の提供など、子育て支援サービスを実施することにより、幅広く子育て世帯への支援を行おうというものであります。また、対象となる年齢につきましては、妊娠期から就学前後、そして18歳までの切れ目のない支援を行うということを考えております。

次に、教育支援機能についての考え方でございます。

先ほど申し上げましたように、総合的な子ども支援拠点が有します機能のうち、主たる機能である相談支援につきましては、福祉と教育が一体となって子供を支えるという視点に立ち、いじめや不登校などの学年齢における子供や保護者が抱える様々な相談に対しましても、教育と福祉が連携して専門的かつ継続的な支援を行い、解決に向けた対応を図るための体制について議論を深める必要があると考え、現在検討を進めているところでございます。

具体的には、このような学齢期におけます相談に対する学校側からの支援、いわゆる教育支援につきましては現在教育センターがその機能を担っておりますが、これを総合的な子ども支援拠点の機能としてどのように取り込むことができるのかという点につきまして、ハード・ソフトの両面から検討を重ねているところであります。2月に開催されました子ども支援拠点創設検討委員会におきまして、市の考え方を示し、協議を行ったところでございます。

今後につきましては、子ども支援拠点創設検討委員会や教育委員会等に御意見をいただきながら、市として必要な機能を精査し、施設整備に向け、基本計画や基本設計を策定してまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

◆11番(中島章二君) それでは、まず日田市総合的な子ども支援拠点創出事業の機能と役割について再質問させていただきます。

先日、3月2日水曜日の西日本新聞には、「残り任期1年半を切った原田啓介市長の肝煎り政策、市総合的な子ども支援拠点創出事業について、大きく進めたかったが、また教育の視点も含め、切れ目ない支援にするために慎重に議論している。急ぎ方向性を固め、9月定例会での実施設計予算の提案が目標」との記事がありました。

また、令和元年第2回定例会の中野議員の質問で、「このセンターの開設というものはいつ頃を目指すものか」という質問に対する答えて、「できればこれからの4年間でしっかりとしためどだけは立てたいというふうに考えている」と答弁されています。

肝煎り事業でありながら、なかなか進んでこなかったのかなというふうに私のほうは感じているのですが、この事業、私も大変必要な事業だと思ってます。その上で、進みがなかなか進んでこなかった、その理由が何かありましたら市長のほうから御答弁頂きたいと思います。

○議長(石橋邦彦君) 市長。

◎市長(原田啓介君) 非常に悩ましいところではございます。先ほどから質問ございましたように、この事業何とか任期内にしっかりとしためど立てて進めていきたいというふうには考えております。実際はかなりの議論は進んできておったところではございますけども、もう今回コロナ禍を経験する中で、特に学校教育の一部をどうやって支えるのかという、先ほど議員がおっしゃったような課題がどんどん新たに入ってきました。そうなりますと、施設の整備そのものも随分違うものになるんだということで、今軽々になるべく今年本当は出したかったんですけど、とても間に合わないというような状況で今議論を進めてるところです。できることとできないこと、やれることやらないこと、やるんであればどこでやるのかということの整理が今、まさに今その話を進めているという状況ですので、そこはきちっと整えば、皆さん方に具体的な方針、それから学校現場、学校関係者の方々にも参加していただけてますんで、そういった方のまた新たな意見も取り入れながら、問題解決が本当にできるようなものにしていきたいというふうには考えております。

ただし、議論はいつまでたっても進まないということになりますので、おおむねの話は聞いております。例えば、学校の困りごとをも一元的に受けれる相談窓口をつくってほしいとか、コンシェルジュのような関係機関につなげていく支援体制を新たに作ってほしいとか、様々な意見が出ております。当初予定したことよりもかなり要求も大きいというような感じでございますが、なるべくそういった期待も将来的に込えられるようなものをしっかりとつくればというふうには考えております。

以上です。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

◆11番(中島章二君) 今市長がおっしゃっていただいたように、この事業、子供を取り巻く環境が非常に複雑化・多様化してきた現状です。またコロナ禍において、さらに複雑な状況が生まれてきてます。こういったところで、今回日田市のほうが教育の部門をしっかりと取り入れた機能を追加していくというようなことで議論を深めていただけるということで理解させていただきました。

そこで、今から教育の部門がしっかり入り込んできて議論を深めていくということが、これまで市長のほうで考えられてきた内容と大きく変わってくる部分があるかと考えるんですけど、そういったところと、今回教育が入ってきて一緒に考えていく、そういった中で、前回の質問でもさせていただいたんですが、私はどこか主管課として必ずこの部署、チームのようなものが出来上がって、この支援拠点をつくっていくのが必要ではないかと考えているところです。先日、どこの部署がということ、市長のほうは考えずに、必要なものをつくっていくということをおっしゃっていました。そういったところで今教育が大きく入ってきた内容になってきているところを考えますと、ここをまとめ上げていくためにはどういったチーム編成で考えていくのかというのを、市長のほう、お考えがあればお聞かせください。

○議長(石橋邦彦君) 市長。

◎市長(原田啓介君) 明確に具体的な案を持ってはなりませんけども、例えば教育が入ってきたということを否定するつもりもなく、そこも何とか補完しなきゃいけないなと思いますけども、どの部分を支えるのかということでした。やはりここは困りごとを含めて子供たちを支援していく、支援という言葉だけになると右から左まで相当広い話になります。そういうことでは多分ないだろうというふうに思ってます。

一つの事例で申し上げれば、例えば不登校も含めて、家庭なりまた人間関係というところで非常にナイーブな方々がいらっしゃるというようなことを含めて、どうやったらそういうことの問題解決は、例えばこの拠点施設の中で解決できるのか、それともここに実はいないで別の方向をやはり探ったほうがいいのかというようなことも併せて考えねばならないというふうに考えてます。そして、出来上がった施策そのものを実行できる体制、それがこれを運営していく体制になっていこうというふうに思ってますので、まずしっかり機能というものを確実に決めていきたいというふうに思ってます。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

◆11番(中島章二君) それでは、教育長のほうにちょっと御質問させていただきます。

令和3年6月議会の教育長答弁に、「総合的な子ども支援拠点ができれば、学校だけでは解決できない相談に関する関係機関との調整機能等も非常にスムーズに行われると思います。対応についてもより効果的・効率的に行うことができると考えております。早期の解決が図られるのではないかと考えている」とありました。今回、教育支援機能をしっかりと機能として取り入れていく構造となるかと思いますが、教育支援を含めた学校、教職員や保護者が活用しやすい拠点として議論を進めていくという方向性を教育委員会がお持ちかどうかお答えください。

○議長(石橋邦彦君) 教育長。

◎教育長(三笠眞治郎君) 日田市総合的な子ども支援拠点というものは、福祉と教育の両面からのいわゆる総合的、そして専門的、かつ継続的な支援が図られるということを目指しております。したがって、当然保護者にとりましては活用しやすい拠点となるよう。また、学校にとってはですね、

教職員にとっては心強い施設となるように、そのように議論を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

◆11番(中島章二君) この支援拠点の機能として使いやすい、相談しやすい、そして一元化された窓口で、解決まで至るとというのが市民の皆さんの一番うれしい施設となると思っております。機能もしっかりしたものとなります。ここで、実際、教育と福祉がつながるといっただけでは、今までもつながって相談をできていますので、その部分だけでは今までの形がそのまま踏襲されるようなものになりかねないと思っています。

この支援拠点を作る段階で、しっかりとした日田式のプランとして子供たちを育てていく、子育て支援をしていく福祉と教育がしっかり作り上げられたシステムを構築することが非常に大切なものではないかと思っています。市長の考えもそこに行くのではないかと思います。今、私の考えがもし違うのであれば、申し訳ないですけど市長のほうから答弁をお願いします。

○議長(石橋邦彦君) 市長。

◎市長(原田啓介君) 今、議員が期待されているようなことになるのが一番理想だというふうに考えておりますので、かといって、できることできないことというのがなかなかたくさんあるだろうというふうに思っております。そのところをしっかりと整理して、確実に、恒久的にそういう支援体制というのが維持できるようなものからスタートしていくということになろうかと思えます。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

◆11番(中島章二君) 支援拠点で最後です。今後のことですけど、この支援拠点をどういったものにしていくかというのを議論していく場、これについては、今まで検討委員会等ございましたが、これについて、これから実施計画を立てていくまでにどういった市役所のほうのどの部署が、そしてどういった検討委員会の中で検討を進めていくのか、今、お考えがありましたらお聞かせください。

○議長(石橋邦彦君) 福祉保健部長。

◎福祉保健部長(松岡政則君) これからのスケジュールでございます。

今回、予算のほうにも上げさせていただいておりますけれども、検討委員会のこれからも引き続きやっていくわけなんですけれども、その中で、基本計画の策定作業というのを進めてまいります。

そこに入ってくる、まず事務局といたしまして、今まで我々福祉保健部が主体となってやっておりましたけれども、先般から教育委員会のほうにも事務局のほうに入ってもらっておりますので、一緒にその検討に至るまでのいろいろな作業等も含めて素案づくり等からやってきまして、その検討会議にかけていくということでございます。

この検討会議で今後も3回程度予定をしておりますけれども、それと併せて、子ども・子育て会議の中でも御意見を聞いていくというところで、基本的なところを固めていきたいと思っております。

春の期間にそういった作業を行いまして、6月の次の議会辺りでは議員の皆さん方にも基本計画をお話することができて、またパブリックコメント等に触れたいと思っておりますので、その後に予算等が必要であれば、またお願いをするとそういった流れを考えております。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

◆11番(中島章二君) 今、教育のほうもしっかり入り込んでということでございましたので、すみません、教育長のほうでこの検討のほうを教育委員会のほうもしっかりとした主管課の意味合いを持った形で協議を進めていくということ、教育と福祉が、しっかりと一緒に作り上げていくということで考えているということによろしいでしょうか。

○議長(石橋邦彦君) 教育長。

◎教育長(三笥眞治郎君) 先ほど申し上げましたように、福祉と教育の両面から総合的に、また専門的に継続的に、その相談あるいは支援ができるような施設となることが望ましいというふうに思っておりますので、福祉とは、十分、一体となって連携を取りながら議論を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長(石橋邦彦君) 11番 中島議員。

◆11番(中島章二君) こちらのほう、福祉と教育が一体となってしっかりと作り上げていっていただきたいと思っております。